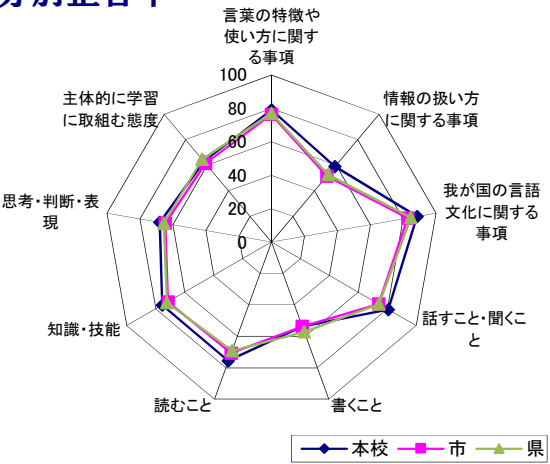


宇都宮市立東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.2	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	59.0	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	88.5	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	80.8	74.1	74.2
	書くこと	53.8	53.7	57.2
観点	読むこと	75.6	70.7	69.2
	知識・技能	75.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	67.9	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	63.1	61.6	64.7



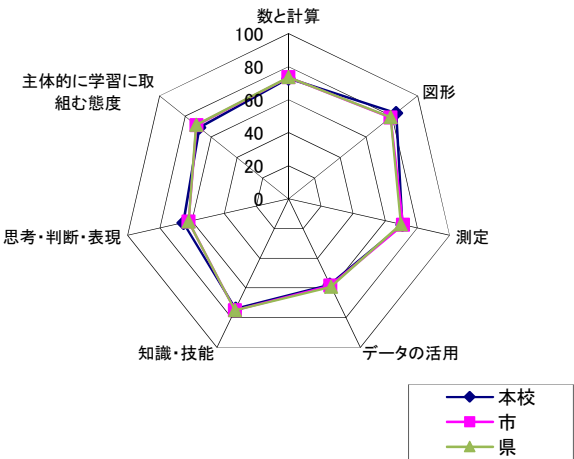
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、県の平均を2.2ポイント上回った。 ○漢字の読み書きについてはよく理解している。 ローマ字で表記されたものを正しく読むことは、県の平均を15.7ポイント上回っている。 ●漢字の読み書き、ローマ字の読みについては、習得に個人差が見られる。「都合」の漢字の読み「温かい」の漢字の書きの正答率は県の平均を10ポイント程度下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについて継続的に指導を行う。学習した漢字を日常生活の中で進んで使うことができるような指導や声かけをしていく。また、漢字の意味と漢字を結びつけることによって、漢字の使い分けができるようにするなどして定着を図る。 ・ローマ字についても、継続的に指導を行う。児童の目に触れるところにローマ字の表記をした掲示物を掲示したり、ローマ字に触れる機会を意図的に作ったりしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、県の平均を6.3ポイント上回った。 ○国語辞典の使い方の正答率は88.5%で県の平均を17ポイント上回っており、使い方をよく理解している。	・授業中だけでなく、家庭学習の際にも国語辞典を使う機会を作り、使い方に慣れるように継続的に指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均を3.8ポイント上回った。 ○「漢字のへんやつくりを理解している」は、県の正答率を3.8ポイント上回っている。 ●理解に個人差が見られる。	・新出漢字の学習の際に、漢字の部首を確認し、漢字の部首について意識付けをしていく。同じ「へん」や「つくり」をもつ漢字を調べたり、集めたりするなど指導を工夫し、定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均を6.6ポイント上回った。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉えている」「話の中心を明確にするための話し合いの工夫を捉えている」についての正答率は県の平均よりも10ポイント程度上回り、話の内容を聞き取る力が身に付いている。 ●「自分の考えを、理由を挙げながら話す」は、県の平均を2ポイント下回っている。問題の条件に沿わない解答をしている児童の割合は30.8%であった。	・国語の授業だけでなく、学級活動など学校生活の様々な場面を通して話し合い活動の機会を多く設定し、話題に沿った意見が言えるようにするとともに、自分の意見の理由を適切に話すことができるよう、段階を追って指導を重ねていく。 ・総合的な学習の時間など、国語の学習に限らず、話し手が伝えたいことの中心を捉えながら聞く機会を意図的に設定したり、相手に伝わる話し方について共有していくなど、聞き方、話し方について継続して指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は、県の平均を3.4ポイント下回った。 ●2段構成にする条件に合っている児童が46.2%、2段構成になっていない児童の割合が30.8%である。また、無記入の割合が23.1%である。	・文章を書くことに抵抗感がなくなるように、日記や短作文を書く機会を多く設ける。 ・条件に合った書き方ができるよう、国語の授業の中で、時数を指定した作文を書いたり、段落を意識して作文を書いたりする機会を意図的に設定する。 ・文章を読んだ際に、自分の考えを明確にし、その理由を表現できるように日々の授業の中で継続的に指導していく。自分の考えを明確にすることが難しい児童については、段階的に自分の考えを明確にすることができるよう指導していく。
読むこと	平均正答率は、県の平均を6.4ポイント上回った。 ○「叙述をもとに段落の内容を捉えている」は、65.4%で、県の平均を18.7ポイント上回っている。また、「登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉えている」は、88.5%で、県の平均を8.5ポイント上回っている。	・物語文、説明文とも叙述を基に文章の内容を捉えることはよくできている。引き続き次の点を指導していく。物語文を読む際には、文中の言葉に沿って気持ちや内容を読み取る。説明文を読む際には、段落の内容を捉え、段落と段落との関係を考えながら読むようにしたり、それぞれの段落がどのような役割を果たしているかを構成図などに表したりする活動を意図的に行う。また、文章を読んで感じたこと考えたことを自分の言葉で表現し、共有する機会を設定していく。 ・引き続き、読書活動に力を入れ、多くの文章に触れるようにする。

宇都宮市立東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.9	73.5	73.6
	図形	83.3	79.0	79.1
	測定	70.8	71.1	69.8
	データの活用	57.7	58.4	59.2
観点	知識・技能	74.0	75.0	75.0
	思考・判断・表現	65.4	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	69.2	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

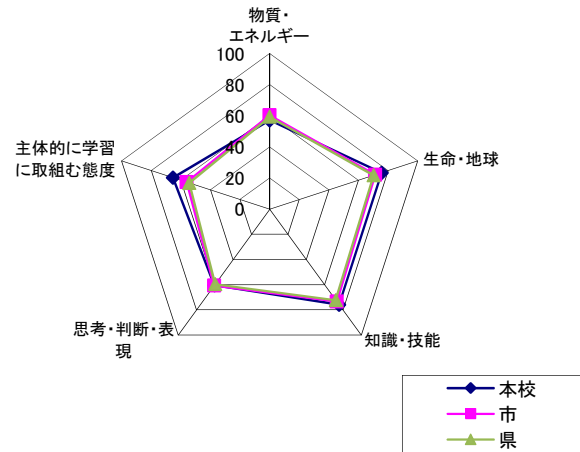
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均を0.7ポイント下回った。 ○数の相対的な大きさの理解は、県の平均を13ポイント上回った。文章題を解くための除法の式の選択、□を使った減法の式に合った文章題の選択は、県の平均をともに10ポイント前後上回った。 ●「整数－小数第一位の計算」、「かけ算の筆算に出てくる数の意味の理解」は、県の正答率も低い、さらに10ポイント以上下回った。	・桁数が増えたり、小数と整数が混じっているなど、計算が複雑になると誤答が多くなる傾向が見られるので、基本的な計算の技能の練習に加えて、ミスをした原因を振り返り、自分で気をつけて取り組もうとする心構えをもたせたい。また、筆算の仕組みを理解し説明できる力をつけるようにしたい。
図形	平均正答率は、県の平均を4.2ポイント上回った。 ○「球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求める」について正答率は、84.6%で県の平均を11.4ポイント上回った。 ●「正三角形を作図する」の正答率は84.6%で、県の平均を3.2ポイント下回った。	・円の直径、半径の意味や性質については、理解している児童が多いが、正三角形の作図のしかたや図の中でその性質を活用できるような問題に触れる機会を、朝の学習や家庭学習に取り入れていくようにしたい。
測定	平均正答率は、県の平均を1.0ポイント上回った。 ○「はかりの目盛りを読み取って、果物の重さを求める」の正答率は、県の平均を7.6ポイント上回った。「単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になることを説明する」の正答率は、県の平均を6.5ポイント上回った。 ●「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める」の正答率は、県の平均を17.9ポイント下回った。	・道のりの意味を理解している児童が多いのにもかかわらず誤答が多いのは、問題文が意味していることの理解や図と照らし合わせて考えることが不十分であることが考えられるので、問題文と図を関連付けて考える習慣が身に付くような態度を普段の授業から身に付けさせたい。また、生活と関連させながら時刻や時間の感覚を豊かにできるように活動を取り入れていきたい。
データの活用	平均正答率は、県の平均を1.5ポイント下回った。 ○「棒グラフを正しく読み取る」の正答率は61.5%で、県の平均を3.6ポイント上回った。 ●「棒グラフの1目盛りの大きさに着目して、間違いを指摘する」の正答率は53.8%で、県の平均を9.2ポイント下回った。	・グラフを比較するときのポイントをはっきりさせるとともに、グラフから気づいたことや、2つのグラフの違いを言葉で表すときに必要なキーワードを確認させたい。また、気づいたことを普段から言葉や文で表現しようとする心構えを大切にしたい。

宇都宮市立東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.1	60.2	59.2
	生命・地球	75.7	71.3	70.3
観点	知識・技能	75.8	73.4	72.3
	思考・判断・表現	60.3	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	65.2	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は県の平均を2.1ポイント下回った。 ○表からゴムを長く伸ばすほど物を動かすはたらきが大きいことを読み取ることは、県の平均よりも11.6ポイント上回った。また、糸電話の糸をつまむと音が伝わらない理由を説明することについても県の平均よりも9.1ポイント上回っている。 ●磁石につく物とつかない物の理解は、県の平均も低い、そこからさらに10.2ポイント下回る結果となった。また、実験の結果から、物の形を変えても重さは変わらないことを考察することは、県の平均から10.1ポイント下回った。さらに容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使用されている理由を実験の結果から推測し、説明するでは、県の平均も低い、正答率が11.1%だった。	・コロナ禍の中で、子供たちの学習条件が厳しく制限される中であっても、可能な限り実験や観察の場を多く設定し、子供たちの体験を通して理解できるようにしていく。場合によっては映像教材なども多く取り入れ、子供たちの理解の一助としていく。また、実験や観察を行う際、既習事項や生活経験を基に根拠のある結果の予想や仮説を立てることができるよう学習の場をより多く設定し、子供たちを支援していく。
生命・地球	平均正答率は県の平均を5.4ポイント上回った。 ○モンシロチョウのさなぎのようすを理解は正答率100%である。また、モンシロチョウがキャベツの葉にたまごをうむ理由を説明するでも県の平均を22.3ポイント上回った。野外の観察で近づいてはいけなとげや毒のある生物を理解するでは、県の平均を上回り、正答率はおよそ9割だった。 ●完全変態と不完全変態の昆虫を理解するでは、県の平均よりも15.7ポイント下回った。また、身近な自然の観察の設問で記録カードの内容をもとに共通点や差異点を見いだすことでも、県の平均を13.6ポイント下回った。	・自然観察を行う際に、植物の観察の仕方はよく理解していることから、昆虫の観察でも植物の観察で行った観察のポイントを確認して活動を支援していく。また、観察だけでなく、映像教材等を積極的に活用し、子供たちの目では見られなかったような昆虫の細部のつくりや変態の様子などを視覚的に学べるよう活動の場を工夫していく。

宇都宮市立東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日の生活がじゅう実していると感じている」との問いにおいて、肯定的回答の割合が県の平均を11.2ポイント上回っている。児童は毎日明るく元気な様子で、意欲的な生活態度が感じられ、充実した毎日を過ごしている様子が伺える。

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」との問いにおいて、肯定的回答の割合が県の平均を14.4ポイント上回っている。児童は、今学んでいる内容に熱心で、自分から進んで学習に取り組んでいるの様子が伺える。

○「授業を集中して受けている」との問いにおいて、肯定的回答の割合は70.4%で、県の平均を14.2ポイント上回っている。日々の授業態度からも真面目に集中して授業に取り組み、前向きな気持ちで学習に臨んでいることが伺える。

○「自分の行動や発言に自信をもっている」との問いにおいて、肯定的回答の割合が県の平均を16.8ポイント上回っている。児童は積極的に様々なことに取り組む意欲があり、行動や発言に自信をもっている児童が多いことが伺える。

○「人と話すことは楽しい」との問いにおいて、肯定的回答の割合は88.9%で、県の平均を12.1ポイント上回っている。児童同士の会話が長く、自分が受け入れられている安心感をもって人と話すことができる児童が多いと考えられる。

○「自分のよさを人のために生かしたい」との問いにおいては、肯定的回答の割合は81.5%でが県の平均を27.2ポイント上回っている。人に対して優しく親切心があり、自分のよさを人のために生かしたいと思う児童が多いと考えられる。

○「自分も持っている能力を十分に発揮したい」との問いにおいては、肯定的回答の割合は81.5%で、県の平均を19.8ポイント上回っている。意欲的で、自分も持っている能力を十分に発揮したいという思いを持ち生活している様子が伺える。

○「自分は家族の大切な一員だと思う」との問いにおいては、肯定的回答の割合は85.2%で、県の平均を11.7ポイント上回っている。安心して学習や生活に取り組む様子が見られ、家庭で愛情一杯に育てられていることが伺える。

○「次の教科などの学習は、しょう来のために大切だと思いますか」との問いにおいては、理科の肯定的回答の割合が88.9%で、県の平均を21.5ポイント上回っている。授業で予想させ結果を演示すると児童の反応が大きい。また植物・生物への関心が高く関連の本を図書室で借りておく積極的に読む姿が見られるのでこの好奇心を大切に育てたい。

●「家で計画を立てて勉強をしている」との問いにおいては、肯定的回答の割合が県の平均を5.5ポイント下回っている。家庭学習には、自主学習ノート等で取り組んでいるが、さらに進んで計画を立て取り組めるよう意識付けしていきたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうをえている」との問いにおいては、肯定的回答の割合が県の平均を7.7ポイント下回っている。タブレット活用が身に付いたのでインターネットで勉強に関する情報を得るのに活用させたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」との問いにおいては、肯定的回答の割合が県の平均を7.6ポイント下回っている。どちらともいえないの回答は、7ポイント上回っているので発表についての称賛場面を多くして自信を付けさせたい。